

## 新情報システム学体系化研究・第7回講演会の開催報告

2015年11月10日

新情報システム学体系調査研究委員会

- ◆日時：2015年 10月15日（水）18時～20時30分
- ◆場所：青山学院大学 総研ビル8階第10会議室
- ◆講演テーマ：「情報システムサイクルとパタン・ランゲージ」
- ◆講師：情報システム総研 代表取締役社長／モデレーター 児玉公信氏
- ◆参加者：11名
- ◆講演概要：

当情報システム学会において、人間中心の情報システム理念を確立するために情報システム学体系確立を調査研究継続中であります。今回は、情報システム学体系の中でエンジニアリングの観点から、効果的な情報システムを企画・構築するための概念や考え方について、情報システム総研の児玉公信氏にご講演頂きました。

情報システムの企画、構築を成功させるための4つの概念について提唱されておりその内容について解説された。それは、・情報システムに対する要求とソフトウェアの仕様に対する要求を分けて考えること、・情報システム構築プロセスとソフトウェア構築プロセスは斜交していること、・情報システムに対する要求が原要求であり、パタン・ランゲージで示されること、・パタン・ランゲージは原要求や設計制約の集積をユーザ側の組織学習として組み込んだ理想的な仕組みであることから成り立っている。

建築学の“用美強”の3つの目標間のトレードオフを調停するアーキテクトを参照、活用して、企業情報システムに対して断片化された状態から系統だった分散化に移行する考え方を示された。情報システムサイクルを実現する活動を施主、設計者、施工者＝アーキテクトが遂行すること、中でもシステム（活動）の設計とソフトウェア（手段）の設計を分けて考えることなどを説明された。そして、この概念の中でパタン・ランゲージの意義や有効性について、紹介された。

### ◆説明資料

- ・参考資料：<http://p-sec.jp/activity/docs/FD2010-1.pdf>

「情報システムとソフトウェアの違いをどう教えますか」

- ・第7回講演資料（別途、掲載予定）

◆質疑応答から (抜粋)

・本日のお話の骨格をベースに詳細化して、建築学と情報システム学の比較から、大学での情報システム学科の先生の指導レベルを更に上げてゆかなければならないと感じた。日本の国際競争力に影響していると感じた。

・主導権は施主（ユーザ）が握っており、育っていくためには実施の現場を、大きいプロジェクト、悩ましいプロジェクトなどを沢山経験して実践知を蓄積していくことが大切で、施主の育成がカギである。やはり、コンサル中心だけでは、アーキテクチャは分からない。

・情報システム産業（S I e r やソフトハウスなど）では、パタンランゲージはまだ一部の人にしか理解されていない、浸透していない。普及が課題である。トップS Eはいろいろな事例を知っているが伝える手段を持って行けていない。保有する経験やノウハウを状況や将来の形を含めてパタンランゲージとして記述し伝えてゆくことが求められている。そして、パタンランゲージは作るだけでなく当然、使い続けることが重要である。

◆アンケート結果から (抜粋)

・情報システム学のエンジニアリング体系の確立に大変に参考になる内容です。

・情報システムを設計するという事について改めて考えさせられました。

建築のメタファにおける、情報システムとの違いは「重力」がない空間に構築される事かと考えたことがある。“用美強”で言えば強に無関心でいられる。

I o T含め、全てがネットワークでつながる状況に至って、「セキュリティ」が情報システムにおける「重力」に代わるモノ（プレッシャー）になるのでしょうか。もしくは「コスト」でしょうか。

・施主とユーザの区別について学べたことが良かった。

情報システム産業（産業・企業・学会・技術者）のパタンを記述できれば良いと考えました。

参加者の皆様から多くの質問や意見が出され活発な議論がなされた。本報告の場を借りて、改めてお礼を申し上げます。

◆問合せ先

<新情報システム学体系調査研究委員会事務局：渋谷照夫>

e-mail: shibu\_t4771■kym.biglobe.ne.jp

(■を@に置き換えてご使用ください。)

以上